

事業所名 ※ グループホーム 楽々園

日付 平成 21 年 11 月 21 日

評価機関名 有限会社 アウルメディカルサービス

評価調査員: 介護福祉士
ケアマネージャー

高齢者福祉・医療における
実務経験3年以上

自主評価結果を見る (評価内容と一緒に添付しています。)

評価項目の内容を見る ※

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!) ※

1. 評価結果の概要

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)
(記述式)

入居者一人ひとりの気持ちを大切に、尊厳ある心で温かいケアを目指しているホームである。研修会や勉強会に力を入れており、同一グループの研修会を1ヶ月に1度3日間行う時には、職員は利用者になりきって参加することで、今まで頭で考えていたことがより深くお年寄り側で考えられるようになってきているようです。また、ふれあいセンターの介護に関するフォローアップ講座に参加したり、自ら大学の公開講座を希望したりする職員も多いので、今後の成長に期待できるようです。実習生の受入れも前向きに行われており、実習生を受け入れることで職員の介護に対する認識も大きく変わって来ているようです。

職員は、花や畑の手入れ等で分からないことがあれば、入居者が培った知恵や誇りを大切に聞き入れたり、外へ出たい入居者がいれば各ホールから安全に外出できるように設備を整えたりしています。尊厳を損なうことなく行動に移し、言葉かけも巧みに入居者の立場を尊重し行っています。また、畑で収穫した芋等を皆と一緒に食べたり、近隣住民に差し上げたりするなど、地域住民との関わりも良好です。そして、家族関係も良く、面会に1日3名は来て、食事の献立や洗い物などのお手伝いをしたりするなど家庭的な一面も現れています。経営者とホーム長との意見交換も十分出来ており、職員の様々な提案に対し経営者は積極的に対応しています。

特に改善の余地があると思われる点(記述式)

今後はさらに人材育成について配慮し、職員がもっと働きやすい環境を整え、長く太く介護できる仕組み作りを期待します。

2. 評価結果(詳細)

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	具体化、実現及び共有	○	
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
記述回答	「一人ひとりの気持ちを大切に尊厳ある心で、温かいケアを目指します。」の介護理念の下、自由にのびのび、ゆっくり、穏やかに生活できるようにと考えながら支援している。また、入居者自身に納得して行動してもらえるよう、ゆっくり待つ姿勢を大切にグループホームを目指している。		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り	○	
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり	○	
4	建物の外回りや空間の活用	○	
5	場所間違い等の防止策	○	
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
記述回答	歌好きな入居者は、月に1回(音楽療法として)カラオケを行ったり、裁縫が好きな入居者は男性職員にマフラーを編んだり、椅子のカバーを編んだりしている。職員は、ユニット間を自由に行き来しながら、入居者が自分の好きな場所で好きな事を自分のペースで行動してもらえるように見守りに徹しながら介助に取り組んでいる。また、転倒防止の為に2ユニット全員で、毎朝体操を行っている。		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にした整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物の支援	○	
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応	○	
28	服薬の支援		○
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
記述回答	昔、音楽の先生だった入居者の方にキーボードを、誕生日会や各行事の時などに弾いてもらう機会を作ったり、また、リハビリを兼ねたカラオケでは暗黙ルールとして、静かに皆で歌に聞き入るような場面作りに取り組んだりしている。 また、意思伝達がなかなか難しい入居者には、ボードへ明確に短い時間帯で「ご飯」「入浴」等と記入し、次の行動に移れるように支援している。		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	災害対策	○	
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
34	家族への日常の様子に関する情報提供	○	
35	運営推進会議を活かした取組	○	
36	地域との連携と交流促進	○	
37	ホーム機能の地域への還元	○	
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か		
記述回答	事故を未然に防ぐために、「報・連・相」を常に心がけている。これにより、スタッフの中に事故予防への意識向上に繋がっている。問題が発生した時には、その都度、ミーティングをして原因解明や対策を話し合い、再発防止に向けて取り組んでいる。また、職員自ら進んで大学の公開講座等に参加し、ケアのレベルアップに努めている。		